

続
とちぎの
サムライ
vol.24

全国津々浦々
お城めぐりの旅

城 屈しなかつた 北条・武田に

ここ数年、城址歩きをしていると、さまざまな城と歴史に関わることになります。毎回のことですが、自分勝手に書いておりますので、史実と異なる部分があるところをご容赦願います。
(一社)宇都宮建設業協会 木澤喜人

群馬県高崎市箕郷町に大好きな箕輪城跡があります。10年以上前に火坂雅志の「業政駈ける」を一気に読み終えて完全にはまってしまい、何回も出掛け城跡を見て歩きました。何と云っても名将と言われた箕輪城主・長野業政(なりまさ)が、あの武田大軍団を、縁戚関係で結束した小さな連合軍で果敢に戦い、何回も損害を与え撤退させました。業政には、3人の妹と正室・側室との間にできた12人の娘がいました。それぞれ周辺諸侯に嫁がせては縁戚となり、箕輪城の周囲には大小300をこえる多くの支城を築き鉄壁の結束をしたのでした。さらに業政は領民たちに新田を開発させ、5年間年貢を免除し、親が亡くなった時は年貢や租税の未納分を帳消しにしてまで領民を守りました。そんな領主に恩を感じ、皆が率先して戦いに協力したことも見逃せません。私は、小勢力が大勢力に対し「勝てなくても、絶対に負けない」と団結し、業政というリーダーのもとに縦横無尽に戦い、結果を出したことに胸が高鳴りました。業政が西上州の雄として活躍した時代には、200年以上続いた関東管領の名門上杉氏も応仁の乱の影響で、山之内上杉と、扇谷上杉に分裂し争い合いました。長野氏は関東管領・上杉氏に代々仕えてきたこともあり、業政は上杉氏の本流である山之内上杉氏の復活を夢みておりました。この辺りは大変複雑で、分かりづらいので、私の独断と偏見で簡単に言いますと、上杉憲政(のりまさ)は、山之内上杉家15代の当主ではあったものの、凡庸で独りよがり、かつ臆病で、名目上だけの関東管領であるのに、自分の力と錯覚していた暗愚な武将でしたが、業政は仕方なく支えていました。北条氏康はそんな上杉憲政を見くびった上、憲政の本城である平井城を攻め、簡単に落城させてしまいました。

1 箕輪城跡 案内図

2 本丸の箕輪城跡碑

3 平井城跡(群馬県藤岡市)

4 上杉氏一族の碑

5 春日山城址・上杉謙信の銅像

上杉憲政は、越後の春日山城主、長尾景虎を頼って自分だけが逃れ、平井城にいた嫡男・龍若丸(12歳前後)を置き去りにし、龍若丸は北条に捕らえられ処刑されました。上杉憲政は、自分を保護してもらうことだけを引き換えに、関東管領の地位と上杉の名跡を景虎に譲ってしまいました。後に長尾景虎は上杉謙信を名乗ることになるのです。長野業政や西上州の武将たちは、北条や武田の進攻に屈服することなく上杉氏の橋頭堡として上杉宗家の復活を信じて西上州を守り続けたのでした。1554年には、「甲斐の武田」・「相模の北条」・「駿河の今川」



による不可侵条約とも言える三国同盟が成立し、一段と緊張感が増しました。そして武田信玄が西上州に進攻してきた時、長野業政は巧みな駆け引きと、堅固な箕輪城とその支城・鷹留城ほか多くの支城を駆使して武田軍を攪乱しました。業政と「義」の心で連携していた上杉謙信も信州川中島に進出しました。その一報が入ると信玄は業政に与えられた損害が大きくなっていき、信州の領地を守ることも重要で、兵を引かざるを得なくなりました。その後も武田軍のしつこい攻撃をしのいでいましたが、時と共に業政も老いと病には勝てず箕輪城にて息を引き取りました。

業政が病死した後、嫡男の長野業盛(なりもり)が後継ぎとなりましたが、武田の攻勢はますます激しくなり、永禄9年、ついに武田軍の攻撃によって箕輪城は落城しました。業政の遺言「我が葬儀は不要。弔いには墓前に敵兵の首をひとつでも多く並べよ。決して降伏するべからず。力尽きなば、城を枕に討ち死にせよ。これこそ孝徳と心得るべし。」を守り、重臣たちが落のびることを進言しましたが、「父の遺訓に背き、祖先の名を汚すことはできない」と御前曲輪で自刃し、19歳の生涯を終えました。天正10年、武田氏が滅亡すると、上州には滝川一益が入りましたが、半年後には本能寺の変で信長が死亡し、結局箕輪城は北条氏の城となりました。天正18年、秀吉の小田原攻めの際、箕輪城はたいした戦をするこなく開城しました。



北条が倒れた後は徳川の家臣、井伊直政(後に彦根藩30万石の藩祖となる)が12万石で入城しました。現在の城郭は井伊直政によって大きく改造されたものと思われます。井伊氏はやがて高崎城を築いて移っていき、箕輪城は廃城となりました。箕輪城の城域は、南北最大1,250m、東西最大450mという大城郭です。現地に行けば一目瞭然ですが、何本も掘られた「大堀切」には圧倒され、堀の中を歩くと別世界に来たような錯覚を感じるほどです。何回も訪城して隅から隅まで見たつもりですが、行くたびに新しい発見があり魅力的です。この箕輪城には、真田幸村の祖父の真田幸隆らを一時かくまっていたこともありましたが、皮肉なことに真田幸隆が武田信玄の家臣となったため、業政とは敵対することになりました。また、北条氏康に攻められ落城した近隣の大胡城・上泉城の城主でのに剣聖と言われた上泉信綱も業政の重臣として腕を振るったようです。ビッグ・ネームがたくさん出てくる西上州では重要な城だったと思います。長野業政の「生き様」は、私には崇高すぎて、とても…。最後になりますが、コロナ禍で自重することが求められている中で、休日に家に引きこもっていても仕方がないので、人がいないような城跡に行き、ドローンで空から城跡を見て、編集しYouTubeにUPしております。取りあえず箕輪城も2020年6月にUPしてあります。https://youtu.be/19CWHgRx7ZQまたは、「空中散歩 箕輪城」でも拾えます。結構、自己中のマニアックな動画ですが、暇があれば「空中散歩シリーズ」を見てみてください。撮影と編集技術がお粗末ですが、そこは優しく見守っていただければと思います。頓首